

主要参考文献一覧

《注》本研究を進めるに際して、学習指導要領およびその解説、多くの国語科教科書およびその教師用指導書を参考にしたが、以下の一覧からは割愛し、単行本・雑誌論文に限定した。なお単行本はサブカルチャー関連の文献を中心に、また雑誌論文は引用文献を中心にまとめたものである。

I 単行本

- 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』（講談社、2001. 11）
東浩紀『网状言論F改』（青土社、2003. 1）
東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生—動物化するポストモダン2』（講談社、2007. 3）
足立悦男『新しい詩教育の理論』（明治図書、1983. 8）
我孫子武丸「初級サウンドノベル制作講座」（我孫子武丸『公式ファンブック・かまいたちの夜』（チュンソフト、1995. 1））
アレクサンドリア木星王『秘密のタロット・カード』（西東社、1998. 6）
石原千秋『国語教科書の思想』（筑摩書房、2005. 10）
伊藤洋編著『国語の教科書を考える』（学文社、2001.）
井上俊編『新版・現代文化を学ぶ人のために』（世界思想社、1998. 11）
井上尚美・中村敦雄編『メディア・リテラシーを育てる国語の授業』（明治図書、2001. 11）
今井康雄『メディアの教育学』（東京大学出版会、2004. 6）
入部明子『アメリカの表現教育とコンピュータ』（教育出版センター、1996. 7）
入部明子『論理的文章学習帳』（牧野出版、2002. 8）
上田紀行『癒しの時代をひらく』（法蔵館、1997. 3）
内田隆三『テレビCMを読み解く』（講談社、1997. 4）
大内善一『「伝え合う力」を育てる双方向型作文学習の創造』（明治図書、2001. 3）
大河原忠蔵『状況認識の文学教育（増補版）』（有精堂、1982. 7）
大河原忠蔵『行動する文学教育』（くろしお出版、1986. 9）
大津雄一・金井景子編著『声の力と国語教育』（学文社、2007. 3）
大塚英志『まんがの構造』（弓立社、1988. 7）
大塚英志『戦後まんがの表現空間』（法蔵館、1994. 7）
大塚英志『物語の体操』（朝日新聞社、2000. 12）
大村はま『大村はま国語教室・第二巻』（筑摩書房、1983. 3）
大村はま『大村はま国語教室・第十二巻』（筑摩書房、1984. 1）
大村はま『教師大村はま96歳の仕事』（小学館、2003. 6）
岡田斗司夫『オタク学入門』（太田出版、1996. 5）
岡田斗司夫『東大オタク学講座』（講談社、1997. 9）
岡田斗司夫『東大オタクキングゼミ』（自由国民社、1998. 4）

小栗康平『映画を見る眼』(NHK出版、2005. 6)
落合真司『中嶋みゆき・言葉の向こう側』(青弓社、1998. 2)
加藤典洋『言語表現法講義』(岩波書店、1996. 10)
香山リカ『テレビゲームと癒し』(岩波書店、1996. 10)
川喜田八潮『〈日常性〉のゆくえー宮崎アニメを読む』(JICC出版局、1992. 4)
川邊一外『ゲームシナリオ作法』(新紀元社、1999. 11)
北川達夫『図解・フィンランドメソッド入門』(経済界、2005. 11)
北田暁大『嗤う日本の「ナショナリズム」』(日本放送出版協会、2005. 2)
切通理作『ポップカルチャー若者の世紀』(廣済堂出版、2003. 7)
草野厚『テレビ報道の正しい見方』(PHP研究所、2000. 11)
工藤順一『国語のできる子どもを育てる』(講談社、1999. 9)
見坊豪紀『ことばの海をゆく』(朝日新聞社、1976. 11)
鴻上尚史『あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント』(講談社、2000. 11)
鴻上尚史『発声と身体のレッスン』(白水社、2002. 4)
小浜逸郎『大人への条件』(筑摩書房、1997. 7)
今野喜清編著『学校知を組みかえるー新しい「学び」のための授業をめざして』(学文社、2002. 3)
榎藤晋『「ねじ式」夜話』(喇嘛舎、1992. 5)
齋藤孝『声に出して読みたい日本語』(草思社2001. 9)
齋藤美奈子『文章読本さん江』(筑摩書房、2002. 2)
佐藤雅彦『クリック』(講談社、1998. 3)
佐藤雅彦『キノの本』(マドラ出版、1999. 3)
佐藤雅彦『プチ哲学』(マガジンハウス、2006. 6)
佐藤学編『教室という場所』(国土社、1995. 1)
佐藤学『教育方法学』(岩波書店、1996. 10)
佐藤学『教師というアポリアー反省的实践へ』(世織書房、1997. 10)
佐藤学『学びの身体技法』(太郎次郎社、1997. 12)
佐藤学『「学び」から逃走する子どもたち』(岩波書店、2000. 12)
佐藤洋一編著『実践・国語科から展開するメディア・リテラシー教育』(明治図書、2002. 9)
佐藤良明『J-POP進化論』(平凡社、1999. 5)
鹿内信善『やる気をひきだす看図作文の授業』(春風社、2003. 10)
鹿内信善『「創造的読み」の支援方法に関する研究』(風間書房、2007. 2)
ジャンニ・ロダーリ『ファンタジーの文法』(窪田富男訳、筑摩書房、1978. 5)
ジャンニ・ロダーリ『物語あそび』(窪田富男訳、筑摩書房、1981. 7)
しんどうこうすけ『エンタメの法則』(インデックス・コミュニケーションズ、2007. 9)
菅谷明子『メディア・リテラシーー世界の現場から』(岩波書店、2000. 8)
鈴木慎一・関根荒正・町田守弘『教師教育の課題と展望』(学文社、1998. 3)
鈴木孝夫『ことばと文化』(岩波書店、1973. 5)

鈴木孝夫『ことばの人間学』（新潮社、1978. 9）
鈴木孝夫『日本語と外国語』（岩波書店、1990. 1）
鈴木みどり『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』（世界思想社、1997. 6）
鈴木みどり『メディア・リテラシーの現在と未来』（世界思想社、2001. 10）
高橋俊三『群読の授業』（明治図書、1990. 7）
高橋勝『文化変容のなかの子ども—経験・他者・関係性』（東信堂、2002. 6）
滝浦真人『お喋りなことば』（小学館、2000. 4）
竹内敏晴『「からだ」と「ことば」のレッスン』（講談社、1990. 11）
竹内敏晴『日本語のレッスン』（講談社、1998. 4）
竹内敏晴『教師のためのからだとことば考』（筑摩書房、1999. 1）
田近洵一編著『子どものコミュニケーション意識』（学文社、2002. 3）
田中孝一・町田守弘編『いま求められる読解指導開発マニュアル』（東京法令出版、2006. 5）
田中宏幸『発見を導く表現指導』（右文書院、1998. 5）
土井隆義『「個性」を煽られる子どもたち』（岩波書店、2004. 9）
東京学芸大学国語教育学会編・根本正義監修『子ども文化と国語教室』（三省堂、1997. 8）
永井均『マンガは哲学する』（講談社、2000. 2）
中島みゆき『中島みゆき全歌集』（朝日新聞社、1986. 12）
中島みゆき『中島みゆき全歌集・2』（朝日新聞社、1998. 3）
中瀬正堯・国語論究の会『表現する高校生—対話をめざす教室から』（三省堂、2003. 10）
長沼行太郎他『日本語表現のレッスン』（教育出版、2003. 8）
夏目房之介『マンガはなぜ面白いのか』（日本放送出版協会、1997. 11）
夏目房之介『マンガ学への挑戦』（NTT出版、2004. 10）
西岡文彦『編集の学校』（『別冊宝島134』宝島社、1991. 6）
日本国語教育学会編『ことばの学び手を育てる国語単元学習の新展開・理論編』（東洋館出版社、1992. 8）
日本国語教育学会編『ことばの学び手を育てる国語単元学習の新展開—高等学校編』（東洋館出版社、1992. 8）
野坂昭如『わが桎梏の碑』（光文社、1992. 9）
ハーバート・リード『芸術の意味』（滝口修造訳、みすず書房、1966. 6）
浜本純逸『国語科新単元学習論』（明治図書、1997. 8）
浜本純逸『国語科教育論』（溪水社、2000. 4）
浜本純逸『文学教育の歩みと理論』（東洋館出版社、2001. 3）
浜本純逸『文学を学ぶ文学で学ぶ』（東洋館出版社、1996. 8）
平田オリザ『対話のレッスン』（小学館、2001. 10）
平田オリザ『演劇のことば』（岩波書店、2004. 11）
府川源一郎『「国語」教育の可能性』（教育出版、1995. 6）
福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社、1991. 12）

- 藤原智美『ディスプレイの仲の青空』（白水社、1996. 10）
- 堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』（岩波書店、1958. 12）
- 本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論社、1999. 7）
- 本田和子『フィクションとしての子ども』（新曜社、1989. 12）
- 町田守弘『授業を開く―【出会い】の国語教育』（三省堂、1990. 1）
- 町田守弘『授業を創る―【挑発】する国語教育』（三省堂、1995. 2）
- 町田守弘『国語教育の戦略』（東洋館出版社、2001. 4）
- 町田守弘『国語科授業構想の展開』（三省堂、2003. 10）
- 町田守弘『声の復権と国語教育の活性化』（明治図書、2005. 10）
- 町田守弘編『月刊国語教育2000. 5別冊・新しい表現指導のストラテジー』（東京法令出版、2000. 5）
- 松山雅子編著『自己認識としてのメディア・リテラシー』（教育出版、2005. 5）
- 三浦和尚『「読む」ことの再構築』（三省堂、2002. 10）
- 三浦和尚『国語教室の実践知』（三省堂、2006. 2）
- 水越伸『デジタル・メディア社会』（岩波書店、2002. 4）
- 水越伸『デジタル・メディア社会』（岩波書店、2002. 4）
- 宮崎駿『出発点・1979～1996』（徳間書店、1996. 7）
- 宮台真司『透明な存在の不透明な悪意』（春秋社、1977. 11）
- 宮台真司『世紀末の作法―終ワリナキ日常ヲ生キル知恵』（株式会社リクルート、1997. 8）
- 宮台真司『まぼろしの郊外―成熟社会を生きる若者たちの行方』（朝日新聞社、1997. 12）
- 村上春樹・川合隼雄『村上春樹、河合隼雄に会いに行く』（岩波書店、1996. 12）
- 村上春樹『アンダーグラウンド』（講談社、1997. 3）
- 森昭雄『ゲーム脳の恐怖』（日本放送出版協会、2002. 7）
- 横田憲一郎『教科書から消えた唱歌・童謡』（産経新聞社、2002. 4）
- 由井はるみ編著『国語科でできるメディアリテラシー学習』（明治図書、2002. 4）
- 吉見俊哉『カルチュラル・ターン、文化の政治学へ』（人文書院、2003. 5）
- 読売新聞文化部『唱歌・童謡ものがたり』（岩波書店、1999. 8）
- 四方田犬彦『漫画原論』（筑摩書房、1994. 6）
- 和田敦彦『メディアの中の読者』（ひつじ書房、2002. 5）

II 雑誌論文

- 足立悦男「国語科授業を、より豊かに―『ことばあそびの詩』の役割」（『月刊国語教育研究』1993. 9）
- 石塚修「大学における『国語』教育はどのようになされるべきか」（『月刊国語教育研究』2002. 2）
- 金井景子「朗読の現場を創る―学校の中のライブ・スポット、『よむよむ座』の試み」（『月

刊国語教育』2000. 9)

草野十四朗『『CM天気図』で批評を楽しむーメディア・リテラシーの実践として』(『両輪』2002. 6)

佐藤学『『学び』から逃走する子どもたち』(『世界』1998. 1)

佐藤学「子どもたちはなぜ『学び』から逃走するか」(『世界』2000. 5)

佐藤雅彦「本当に面白いことは何か、本当に根元的なことは何か」(『広告批評』2003. 7)

佐藤良明「安室奈美恵への道ー日本のうた試論」(小林康夫他編『新・知の技法』東京大学出版会、1998. 4)

塩田英子「バラエティ番組における文字テロップの役割」(『メディアとことば・2』ひつじ書房、2005. 9)

高木まさき『『遅い情報』としての文学に触れることー国語教育の立場から』(『日本文学』2005. 3)

田中孝一「メディア・リテラシーの教材開発ー新国語科の方向に沿って」(『教育科学国語教育』2002. 1)

外館克裕「国語科へのテレビゲームの導入」(『月刊国語教育2000. 5別冊・新しい表現指導のストラテジー』2000. 5)

豊澤弘伸「大学・短大における『国語』教育」(『月刊国語教育研究』2002. 2)

中村敦雄「メディア・リテラシーと国語科教育」(『日本語学』2002. 10)

中村純子「映像を読み解く」(『日本語学』2002. 10)

浜本純逸「国語教育の課題・二〇〇七年」(『国語の授業・200号』2007. 6)

浜本純逸「言葉が生まれる場を設ける」(『月刊国語教育研究』2007. 10)

平田オリザ「対話劇を教科書に」(『月刊国語教育』2001. 6)

府川源一郎『『文学』に『生きる力』が育てられるのか』(『月刊国語教育』1997. 7)

府川源一郎「ケータイ作文の可能性」(『月刊国語教育研究』2003. 7)

堀井雄二「テレビゲームの面白さとは」(『青春と読書』1993. 6)

町田守弘「国語科の効果的な学習課題を考えるー『2002年問題』という幻想を超えて」(『月刊国語教育』2002. 2)

町田守弘「大学における『国語表現』の授業構想」(『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』2004. 3)

町田守弘「サブカルチャー教材の可能性を探るー高校生の意識調査結果から」(『学術研究』2005. 3)

町田守弘「大学の授業改善への一視点ー『国語』関連科目の場合」(『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』2005. 3)

町田守弘「文章表現技術指導に関する一考察」(『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』2006. 2)

町田守弘「表現指導の戦略ー書くことへと向かう意志を育てるために」(『月刊国語教育』2006. 5)

松山雅子「言語芸術としての動画テキストの教材化と教授法」(『中西一弘先生古稀記念論文集』大阪国語教育研究会、2004. 2)

森政稔「『学校的なもの』を問う」(小林康夫他編『知のモラル』東京大学出版会、1996. 4)

吉田裕久「読解力と『読解力』(Reading Literacy)」(『教育科学国語教育』2006. 2)